

6

これから先も藤沢市の財政は本当に大丈夫なの？

1 総合的には全国的に見ても健全財政を保っているのはわかったけど、これから先、将来も本当に大丈夫なの？

これからの藤沢市のまちづくりでは、地震や津波発生時などの防災・減災対策や公共施設の老朽化対策など、数多くの事業が計画されています。これらの事業を実施していくためには多くの財源が必要となりますが、歳入の根幹をなす市税収入は、平成27年度予算では法人市民税の減収などにより減少を見込んでおり、今後についても経済情勢や税制改正など不確定要素はあるものの、中長期的には横ばい傾向或いは減少傾向で推移すると予測しており、財源確保がとても大きな課題です。



●市税収入の推移



※H18年度～H25年度は決算額 ※H26年度は最終予算額、H27年度は当初予算額

歳出面でも扶助費の増大により厳しい財政運営が中長期的に見込まれる状況にあります。このため、緊急性・重要性の高い施策を優先させるなど、事業の重点化・効率化を進める必要があります。さらに、公共施設の老朽化対策や新たな都市基盤整備等の課題事業については、長期的な視点での財政負担も考慮しつつ、最も経済的・効果的な整備手法を用いるなど、しっかりとした財政運営を行っていかねばなりません。

2 これから多くの公共工事をして大丈夫なの？

今後藤沢市は、庁舎の建て替え、藤沢駅周辺の整備等多くの事業を控えています。それぞれの事業について、国や県などからの補助金の確保を心がけ、できる限り一般財源の削減に努めていきます。これらの施設は、長期にわたり活用していくものですので、前のページで説明しました市債を活用していき、単年度の負担の平準化を図ります。この市債という借金をする際、財政の健全性を判断する指標である実質公債費比率を注視しながら事業計画を立て健全化の維持を図っていきます。

また、新庁舎や市民センターの建て替えにつきましては、積み立てられた公共施設整備基金の活用もしていき、一般財源の軽減に努めていきます。

